

第16回

ゆめ風で逢いまショー



いまこそ



笑いを!



●ステージ●

松元ヒロ「ソロライブ」

●鼎談●

松元ヒロ、小室 等、牧ローニ「コロナ禍の笑い方」

●歌●

小室 等、こむろゆい

2021年9月19日(日)

午後1時30分～

カタログハウスより配信ライブ

【共催】認定NPO法人ゆめ風基金／カタログハウスの学校

まっすぐ見つめる心を失わないでください。

ゆめ風基金代表理事 牧口一三

いまの日本国憲法は1946年11月3日に誕生した。その頃のボクは9才で、幼い頃にかかったポリオで歩けなくなり、戦中で学校に行けず待つこと3年、母におぶわれてやっと1年生の2学期。そんな状態で、ここでは控えるけれど小学校での思い出はありすぎ。センセーたちは憲法の話を楽しそうに楽しそうにしてくれた。希望にあふれていた。軍国主義一辺倒の空気がコロッと民主主義に変わったのだから。9才のボクは、もう戦争なくて済むんだとホッとしたのを覚えている。そうそう、もう少し子どもの頃、ラジオのニュースが始まるとアナウンサーの声がとても怖かった。でも戦況を伝えるニュースゆえではない。声の硬い調子がとても嫌だった。よく防空壕でラジオからの戦況を「ただいま敵機5機、紀伊水道を北上中」などと紀伊水道がどことも知らず周りの大人たちに復唱して、得意げだった気がする。

中学生になって、憲法前文や9条そして25条の内容をていねいに教えてもらった。憲法はその主役を私たち1人ひとりに置き、私たちを守るために為政者を取り締まるもの、1人ひとりには生まれた時から誰にも侵されない自由を持っていること、1人ひとりには国際平和を求め続けること。そのための「戦争放棄」の9条は心に深く沁み込んだ。「あーこれで世界中から戦争はなくなる」と確信した。そして走馬灯のごとく、空襲のサイレンで飛び出してきた母がボクを小脇に抱えて防空壕に駆け込んだこと、母が2年生の夏休みまでおぶって通学してくれたこと、父が買ってきた真っ黒な漆塗りの小さな松葉づえで初めて立てて歩いて、夏休み中に階段の昇り降りも覚え、独りで通学できるようになったこと、そんなあれこれがドッと蘇った。

戦争放棄の9条は、まっすぐ見つめる心ある人には素直に入ってくる。この「まっすぐ見つめる心」が苦手な人は心に響かないらしい。齢を重ねるほど様々なものを観てしまうゆえか「まっすぐ先」が見えない人も増えてくるようだ、ご用心、ご用心。ゆめ風・呼びかけ人の1人、趙博さんから「芸人9条の会」のメンバーには「まっすぐ見つめる心」の持ち主が多くて、そのお1人が今日のゲスト「憲法くん」こと松元ヒロさん。日本中で最も日本国憲法をこよなく愛して……というより慈しんでおられる人、めったにテレビでお目にかかれない人。♪ナンデだろう～ ナンデだろう～？

まきぐち・いちじ●認定NPO法人「ゆめ風基金」代表。1937年、大阪府生まれ。1歳の頃ポリオにかかり、小学入学期が第二次世界大戦中で「空襲時に危険」と3年おくれる。小・中・高・美術学校デザイン科と地域の学校で育つが、卒業後まったく就職できず、3年後に学友4人がデザイン会社を設立する際、仲間に加えてもらい社会に出る。やっと仲間を追いついた頃、障害者問題にめざめて障害者の社会進出とイメージチェンジをテーマに市民運動に参加。

ようこそ、ゆめ風へ！

カタログハウスの学校スタッフ 釜池雄高

「ゆめ風であいましょう」は年に一度、ゆめ風基金に思いを寄せる人たちがリアルに集う大切な場所でした。今回、都内のコロナ感染の状況を受け、初めてその場所をオンラインに移して開催することになりました(なので、このごあいさつの原稿も書き直しています)。

コロナ禍のなかで、数少ない「よいこと」を探すと、オンラインでの交流やイベント開催が、以前に比べてずっと広がったことではないかと思えます。もちろんリアルに会うよさにはかきませんが、より簡易に、お金をかけず、数多くの人たちに集まっていただけることは、新しい出会いをたくさん産んだのではないのでしょうか。

これまでゆめ風を応援してくださった方も、そして今回初めてゆめ風を知った方も、画面越しではありますが、みなさんにたのしんでいただけるとうれしいです。なにせ初の試みなので、アクシデントも起こるかもしれません。そんなドタバタもたのしんでいただけると、さらにうれしいです。



松元ヒロ

(まつもとひろ)

芸人。

1952年、鹿児島県生まれ。大学卒業後、パントマイマーとしてお笑いの道へ。88年、社会情勢を笑いに転換するコントグループ「ザ・ニュースペーパー」の結成に参加し、政治風刺の世界へ。98年、「ザ・ニュースペーパー」を退団し、ソロ活動開始。20年12月、松元ヒロに密着したテレビ番組「テレビで会えない芸人」がFNSドキュメンタリー大賞を受賞。『週刊金曜日』に隔週でエッセイを掲載中。著書に『安倍政権を笑い倒す』（佐高信との共著、角川新書）、絵本『憲法くん』（絵・武田美穂、講談社）がある。

(写真撮影：橘 蓮二)

小室等

(こむろひとし)

ミュージシャン、ゆめ風基金呼びかけ人代表

1943年、東京都生まれ。自身のライブ活動を中心に、「Lagniappe」や「六文銭」などユニットでの活動の他、イベントプロデュース、テレビドラマ・舞台・映画などの音楽制作、ドキュメンタリー作品のナレーション、連載コラムの執筆など、活動は多岐にわたる。CDは18年に六文銭で『自由』、17年にソロで全編、谷川俊太郎氏の詩による『プロテストソング2』を発表。



こむろゆい

ミュージシャン

いくつかのバンド活動を経て、1997年、第11回青山演劇フェスティバルにてミュージカル「スパイものがたり」（別役実・作）に楽団として出演。99年、NHK「みんなのうた」に採用された自作曲「ひとつのドア」が、FLMEよりシングルとして発売を機にCDデビュー。現在はウクレレと歌とカホンのユニット「こむろゆいとかわのしゅんじ」でのライブ活動の他、父・小室等との「Lagniappe」や「六文銭」のメンバーとしても活動。



ゆめ風基金の 活動報告



ゆめ風基金とは

阪神・淡路大震災を機に発足、地震などで被災した障害者を支援する団体。小室さんをはじめ各界の多数の方々を呼びかけ人とし、全国の障害者運動とともに被災障害者への救援・支援をつづけています。初代呼びかけ人代表は永六輔さん。2005年に永さんから小室さんに引き継がれました。

水に浸かったグループホームを支援金で再建。

NPO 法人岡山マインド「こころ」代表理事・多田伸志

NPO 法人岡山マインド「こころ」は、「精神障害」といわれる生きづらさを抱えた仲間たちが 20 名働く会社です。障害を隠さずまちに出る、無いものは自分たちで作る——こうして 23 部屋のグループホームをまちの中に展開し、地ビール醸造所・ビアホールを独自の補助金なしの事業として運営し、お年寄りの家に弁当の宅配をしたり、「マインド親子クラブ」を若いママたちと催したりして、まちへの土着を目指してきました。

しかし、2018 年 7 月 7 日、私たちが暮らす倉敷市真備町は泥水に沈みました。死者 51 名、全壊家屋 5200 棟。100 年に一度は洪水に見舞われてきた土地であるにもかかわらず、そのことを忘れ、私たちは逃げませんでした。「急いで高台に避難してください」と行政の放送が鳴り響いた早朝 5 時前……泥水が迫り、まちの低い場所にいた 8 名が孤立していました。私は自宅から足ひれを持ち出して泥水の中に泳ぎ出しました。それから 10 時間、消防のゴムボートで丘へ上げていただくまで、全てが平等に浸かったまちの風景の一つになっていました。幸い全員無事でした。

空っぽの家々が立ちすくむ、まるでムクノ絵のようにポツカリと口を開けた窓や扉、夜になると真っ暗で誰もいないまち、カエルの鳴き声一つしないまち……。ドロドロのまちは多くのボランティアの方々が泥をかきだし、キレイになっていきました。私たちもグループホームの片付けをしながら、被災した家々への支援に毎日走り、泥をかき出しました。

そして 8 月 1 日、精神科病院に避難していた仲間 16 名がまちに帰って来てくれました。泥水に浸かり、みんなで掃除した部屋、布団一つしかない部屋、それでも彼らは帰りがたかった。20 年、30 年、そんな長い入院を経てマインドのグループホームに来てくれた仲間たち。水に浸かって全壊したグループホーム 10 部屋の再建には、災害から 4 ヶ月後にいち早く支援金を届けてくれた「ゆめ風基金」からの 500 万円が大いに役立ちました。ありがとうございます。

でも、まちに人がいない。何のために私たちはまちに戻ったのか、このままではいけないと思いました。まちの復興なしに、私たちだけが助かっても意味がない。そこから私たちはみんなで話し合い、被災したまちの人が被災した人を支援する、「お互いさまセンター」を立ち上げました。毎月一度、第 3 土曜日に「みんなで集まろう！ 地ビールと音楽の夕べ」を始め、徐々に人が戻ってきました。私たちは自分たちのできる役割をいまでも続けています。



泥水に沈んだ真備町。



再建できたグループホーム。

2020 年に行なった被災障害者支援 総額 2050 万 5284 円

● 2020 年 7 月豪雨（熊本県を中心に各地で被害）

熊本市、水俣市の NPO 法人など 4 ヶ所に、避難者住居の確保、作業所の修理、備品購入費として総額 2,890,985 円を支援。

● 2020 年新型コロナウイルス対策

郡山市の NPO 法人に衛生用品等備蓄のための物置設置費用として 320,000 円を支援。

● 2019 年 9 月、10 月台風（千葉県を中心に各地で大きな被害）

南房総市で被害を受けた NPO 法人 2 ヶ所に、事業所の改修工事費として 4,294,299 円を支援。

● 2018 年 9 月台風（大阪府を中心に各地で被害）

寝屋川市で被害を受けた NPO 法人に、事業所の建て替え費用として 5,000,000 円を支援。

● 2011 年 3 月東日本大震災

登米市、郡山市の NPO 法人 2 ヶ所に、作業所の建設・整備、設備購入費として 8,000,000 円を支援。